教文館　新刊案内　　3月25日発売予定

メンデルスゾーンの宗教音楽

バッハ復活から
オラトリオ《パウロ》と《エリヤ》へ

星野宏美著

四六判・並製・300頁　定価2,200円（本体2,000円＋税）

ISBN 978-4-7642-6161-7　C0073

「ドイツ・プロテスタント音楽の継承者」として
その生涯を再評価する本邦初の研究書

ロマン派を代表する作曲家メンデルスゾーン。二大オラトリオ作曲の素地となったバッハ復活上演の取り組みを踏まえてその宗教音楽の根幹を解き明かし、知られざる本質に迫る渾身の一書！

音楽家　池辺晋一郎氏・鈴木優人氏　推薦！

著者　星野宏美（ほしの・ひろみ）
東京藝術大学大学院音楽学部楽理科修了。博士（音楽学）。現在、立教大学異文化コミュニケーション学部教授。
著書『メンデルスゾーンのスコットランド交響曲』（音楽之友社、2003年）、『ゲーテの詩に基づく《最初のワルプルギスの夜》（作品60）――玉川大学教育博物館所蔵メンデルスゾーン自筆ピアノ譜』（雄松堂、2005年）ほか。

目次より

Ⅰ　バッハとメンデルスゾーン
　第１章　《マタイ受難曲》――100年の忘却から蘇るバッハ
　第２章　《ミサ曲 ロ短調》――果たせなかった全曲演奏
Ⅱ　メンデルスゾーンのオラトリオ
　第３章　《パウロ》――新たな手法による古き本質の表現
　第４章　《エリヤ》――普遍的な真理の共有をめざして